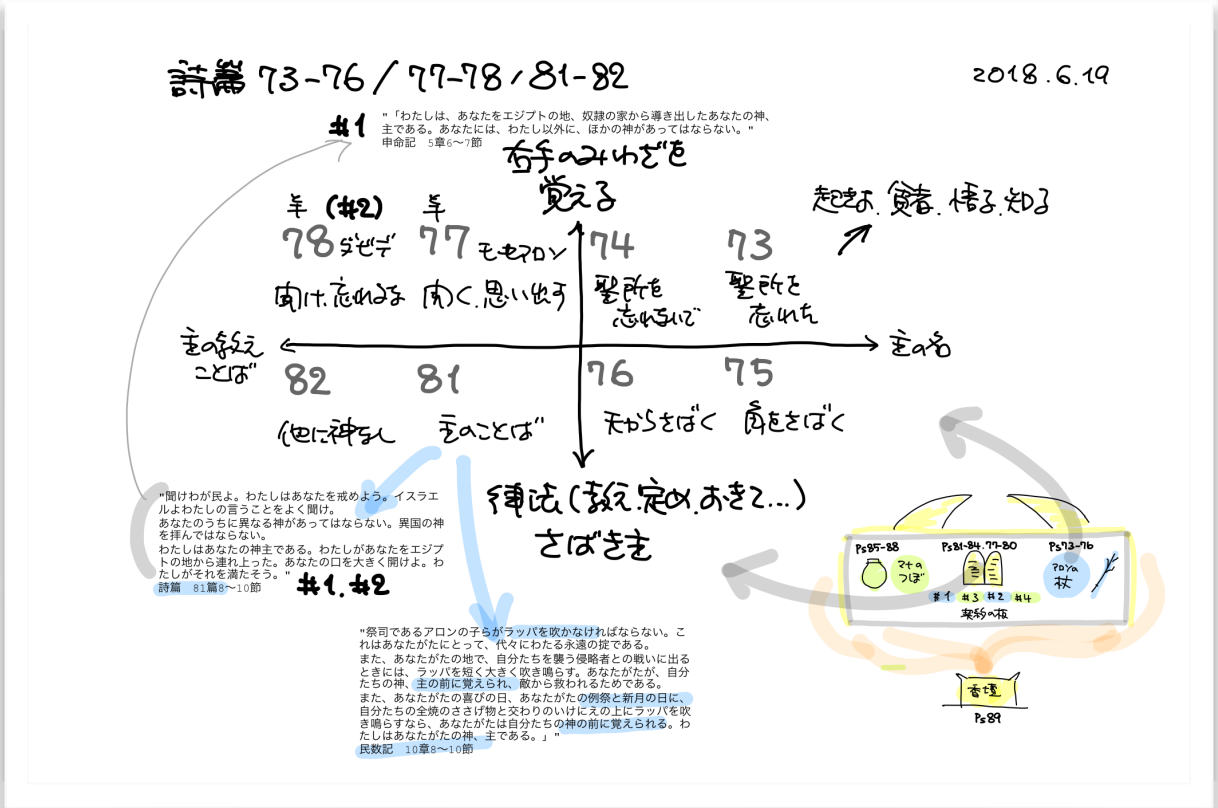
詩篇第3巻

詩篇73-89篇の配列構造



詩篇第3巻を分析しています。アロンの杖、十戒の板、マナのつぼ。この真ん中のところです。

77篇からと、81篇からのところの、第1戒、第2戒と言っている権威のほう(アロンの杖)と、第3戒、第4戒という聖さのほう(マナのつぼ)と、この青いほう、1戒、2戒にあたる77篇、78篇と、81篇、82篇というところを見ています。

73篇から76篇というアロンの杖と言っているところの分析がありますけれど、この73篇から76篇と、真ん中のところの半分(#1,#2)、これが似ているものだろうと、比較しなさいと言われているところでしょうということで、比較をしています。まだ途中ですが、73篇,74篇,75篇,76篇というものと、真ん中の契約の板の2つに分けた半分ずつのところですね。

77篇から80篇までの上2つ(77,78)と、81篇から84篇までの上2つ(81,82)の、この4つと、アロンの杖の73篇から76篇を見ているわけです。

77篇、78篇の「奇しいみわざを思い出す、忘れるな」という最後のところが、モーセとアロンの手によって導かれた。「ダビデが牧者として、その手をもって導いた」という77篇、78篇。「右の手のみわざを覚える」ということで、この2つはまとめられるかなと。

81篇と82篇がどうなっているのだろうということでしたが、81篇の9節と10節のところに、「ほかの神があってはならない、外国の神を拝んではならない、エジプトの国から連れ出した主である」という十戒の最初のところですね…がここにあります。それと82篇は「ほかの神ではない、神々の中での神です」ということを82篇で言っていますので、特に十戒の1番目、2番目。1番目のところが、この81篇、82篇でも言われているのですけれども、その内容自体が、77篇、78篇で言われている。

この81篇、82篇の共通しているところという意味では、「神様の前で歌います。定め、おきて、あかし、言葉」それで、こちら(82篇)は、「知ること、悟ることという神様のことば、さばきのことば」ということだと思います。ですから、下の方(81,82)は、律法のこと、裁き主であることが強調されているのかなということです。

75篇、76篇も裁き主です。73篇、74篇は聖所を覚えてください。77篇、78篇は、民を覚えてください。81篇、82篇はさばきの言葉というこの並行があるのではないかと見ています。

81篇の中に十戒の最初のところ(1戒、2戒)を思い出す言い方がありますよね。新月と満月と我らの祭りの日にラッパを吹きならせ、そして歌いなさいと言われているところ。ここは、民数記10章の最初のところで、ラッパを作ってください、その作ったラッパを吹いて、民が動き出すことと、おきてを語るとき、戦いに行くようなときにその掟を思い出しなさいということでラッパを使っていますが、あなたがたの喜びの日に、例祭と新月の日にラッパを吹きならして、すると主が覚えてくださいますというところがあります。その箇所を指して81篇が始まって、「」は、翻訳した人が付けたものだと思いますけれど、6節から16節までが、言った言葉ということの解釈ですね。言った言葉ですよと、ラッパを吹きならしてこの言葉を覚えるように、神様に覚えていただくという意味で、吹きならしているというところがありますので、この民数記10章の箇所を思い出して、律法を賛美する。律法の裁きをなしてくださる神様であるという82篇というところが共通しているところではないかと今のところ見ています。

73篇、74篇の中に、「弱い者、貧しい者」のストーリーがありました。それは、82篇にあります。「主よ立ち上がってください」は、74篇にあります。「知る、悟る」というようなことが82篇にあって、このクロスしているつながりがあるのではないかなということは見ていますが、まだ反対側を見たりはしていません。「右の手」という言い方は、73篇,74篇,77篇,78篇というこの4つに右の手が出てきますから、上の4つが共通しているということがわかるのではないかなということで、続けて分析していきましょう。